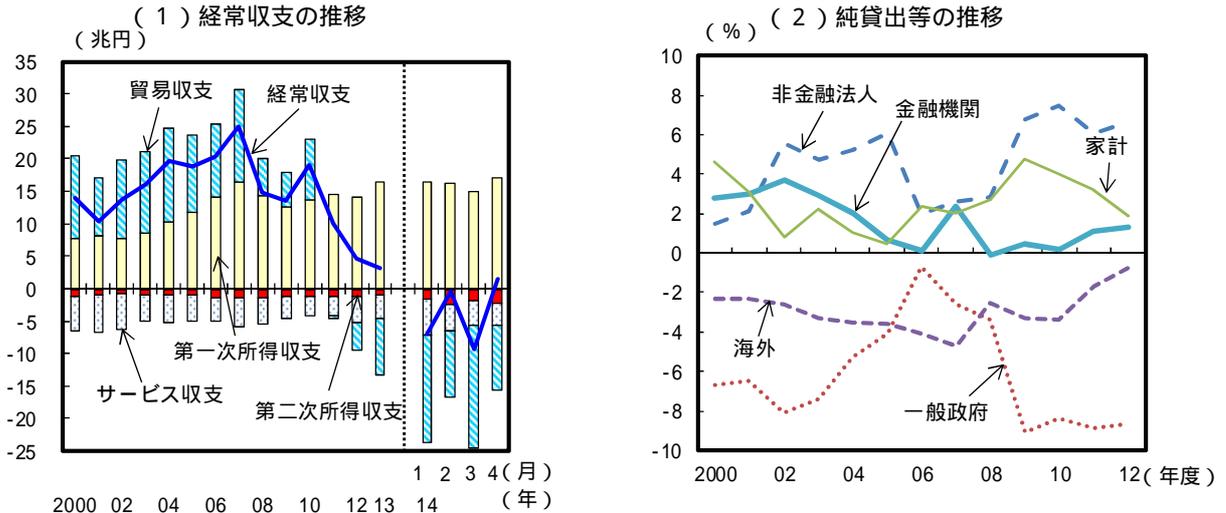


# 第3章 我が国経済の構造変化と産業の課題

## 第1節 経常収支の赤字が問うもの

- 経常収支は2011年以降、黒字幅が急速に縮小。2013年秋以降、おおむね均衡して推移し、2014年1月から4月は年率で約4兆円の赤字
- デフレ脱却へ向けて着実に進む中で家計部門と企業部門の貯蓄超過が縮小。経常収支の赤字の背景にはこうした貯蓄投資バランスの変化。需給バランスの観点からは、デフレ下で隠されてきた資本と労働の供給制約という課題を示唆

第3-1-1図 経常収支の推移と貯蓄投資バランス

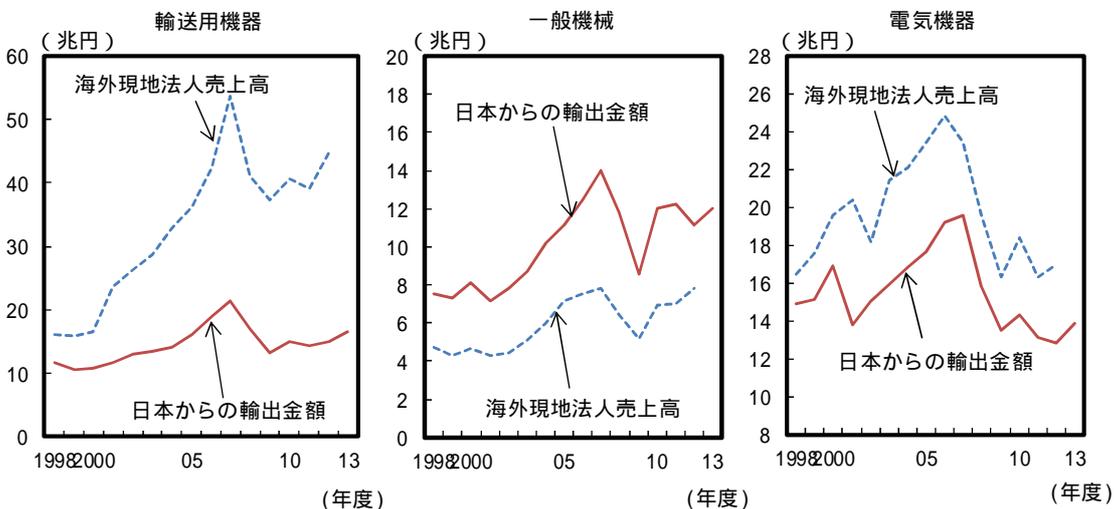


(備考) 1. (左図) 財務省・日本銀行「国際収支統計」により作成。2014年については、各月の季節調整値の年率換算。  
2. (右図) 内閣府「国民経済計算」により作成。

- リーマンショック後、円高方向への動きが進む中で、我が国製造業では、海外生産の拡大が進むとともに、新興国との競争激化もあって非価格競争力が低下。こうしたことから製造業の比較優位と外で「稼ぐ力」(付加価値を生む力)は大きく変化
- 一部の業種で供給制約が顕在化する中で、今後とも財輸出で「稼ぐ力」を高めていくためには、比較優位を維持する資本財等の強みを生かしていくことが重要

第3-1-2図 海外現地生産と輸出の動向

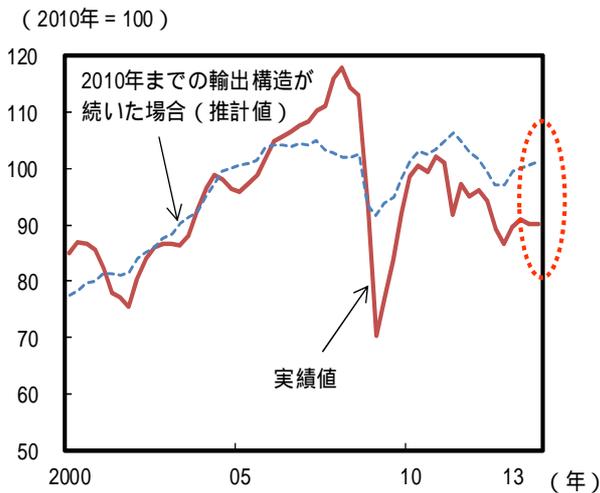
(1) 海外売上高と日本からの輸出金額の推移



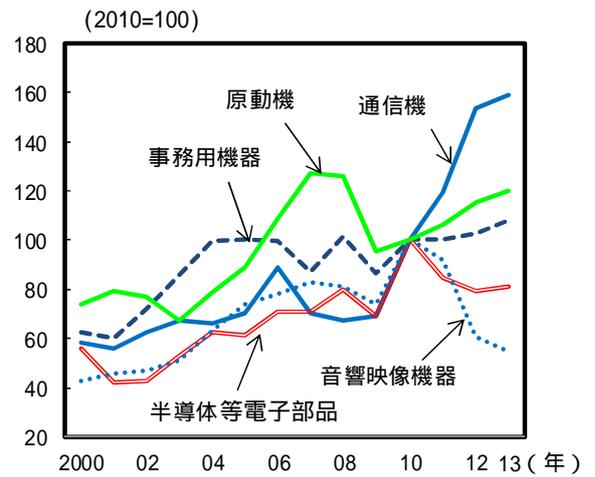
(備考) 財務省「貿易統計」、経済産業省「海外事業活動基本調査」により作成。

- 輸出数量は 2011 年初に直近のピークをつけて以降、弱い動き。2013 年 10 - 12 月期の輸出数量は、製造業の海外生産比率の上昇（2010 年度 18.1% 2012 年度 20.3%）や比較優位の変化等により 2010 年までの輸出構造が続いた場合と比べて約 10%低い水準
- リーマンショック後の円高方向への動きや非価格競争力の低下もあって、通信機や事務用機器等の輸入数量は増加

コラム 3 - 1 図 輸出構造の変化が輸出数量に与えた影響



第 3 - 1 - 3 図 輸入数量の動向 (2) 品目別輸入数量指数の推移

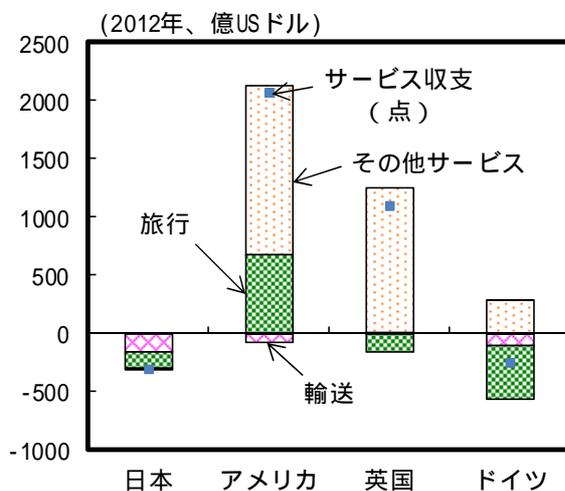


- (備考) 1. (左図) 財務省「貿易統計」、日本銀行、OECD.Stat により作成。推計値は、1990 年から 2010 年までの主要輸出相手国の実質 GDP、実質実効為替レート、高付加価値化指数との関係から推計した輸出数量 (推計式等は付注 3 - 1 参照)
2. (右図) 財務省「貿易統計」により作成。

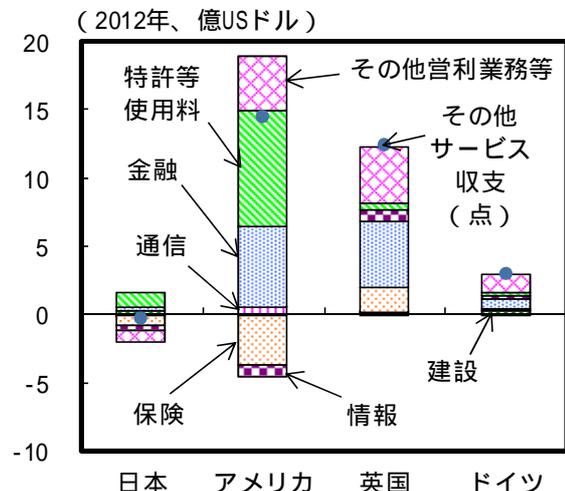
- 主要国では知識集約的なサービスに強みを持つようになっているが、日本のサービスは海外需要の取り込みが限定的。特に、他の主要国と比べてその他サービスに大きな違い
- 日本のその他サービスの受取の柱は知的財産権等使用料。ただし、現地法人向けが中心とみられ、サービス貿易を通じて「稼ぐ力」を高める余地

第 3 - 1 - 5 図 サービス収支の推移

(1) 主要先進国とのサービス収支の比較



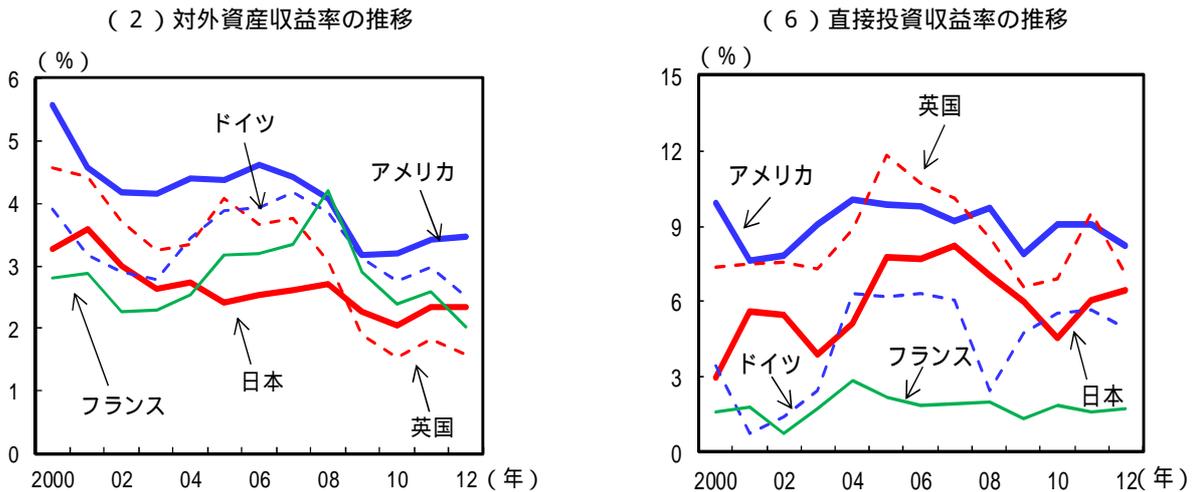
(6) 主要国とのその他サービス収支の比較



(備考) OECD.stat により作成。(右図)の「その他営利業務等」は、その他営利業務、文化・興行、公的その他サービス。

- 対外資産に占める直接投資の割合を引き続き高めるとともに、債券中心となっている証券投資の構成を変えていくことにより、対外資産を通じて「稼ぐ力」を改善する余地
- 日本の直接投資残高のシェアは2000年には先進国向けが6割を超えていたが、2012年には新興国向け直接投資の割合が5割程度まで上昇。こうしたこともあって、直接投資の収益率は改善傾向

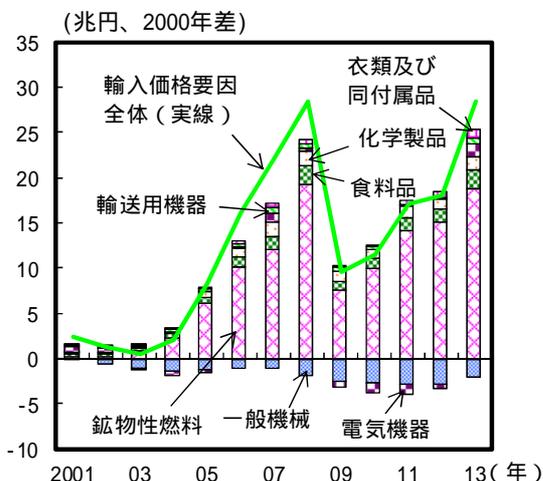
第3-1-6図 対外資産残高と収益率の推移



(備考) IMF "International Financial Statistics"により作成。

- 2000年からの輸入価格上昇の大半を鉱物性燃料価格の上昇が占める。大震災後、鉱物性燃料等の輸入増加を背景として輸入金額が輸出金額を大幅に上回っていることから、エネルギー価格上昇に伴う所得流出リスクは増大
- 日本の対外負債の水準は主要国と比べて低く、特に直接投資の水準は低い。経常収支の赤字は直ちに問題となるわけではないが、厳しい財政状況等に鑑みると、将来にわたって安定的な資金流入を確保するための取組が重要

第3-1-7図 輸入価格と交易利得の動向  
(2) 輸入価格の品目別要因分解



(備考) 1. (左図) 財務省「貿易統計」により作成。

2. (右図) IMF "International Financial Statistics"、"World Economic Outlook Database, April 2014"により作成。

第3-1-8図 資金流入の推移  
(2) 対外負債残高の内訳

